

平成20年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
事後評価結果

研究課題名	遠赤外線干渉計を用いた高解像撮像による星形成現象の詳細研究	研究代表者名 (所属・職)	芝井 広（大阪大学・大学院理学研究科・教授）
-------	-------------------------------	------------------	------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
	A	期待どおり研究が進展した
○	B	期待したほどではなかったが一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

本研究課題では、星形成領域、惑星形成領域など遠赤外線観測が必要とされる天文学分野において、1秒角の高分解能を達成するため、気球搭載用20m基線・遠赤外線干渉計の開発を行った。基幹技術として、新しい干渉方式の考案、安定度の高い姿勢制御システムなどを開発し、実験室レベルでの技術実証を終え、気球フライトによる実証と天文学データの取得を待つ状況である。この過程で多くの大学院生が重要な役割を果たし、若手研究者育成の実も挙げた。

当初は第3年次に予定されていた気球実験が現時点では6年目となったことについては、不可抗力の側面がゼロではないにしろ、大半はプロジェクトの責任といえる。研究成果の評価は気球実験の結果を待たねばならないが、科学研究費補助金の研究課題の評価としては、研究期間中に研究目的が達成されなければならず、本評価はやむを得ないところである。